

Title	モヘンジヨ・ダロ發掘報告の出版
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.2 (1932. 7) ,p.164(310)- 164(310)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19320700-0164

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

モヘンジヨ・ダロ發掘報告の出版

近年インダス河流域のシンド州のモヘンジヨ・ダロ及びパンジャブ州のハラッパより発見された古代文化の遺跡が、世人の注意を著しく惹き、我國に於ても濱田博士、後藤守一氏、井上芳郎氏等の記文が公けにされてゐるが、その正式報告が愈々マーシャル氏によつて全三卷の大冊として公刊された(Sir John Marshall, Mohenjo-Daro and the Indus Civilization, Being an official account of Archaeological Excavations at Mohenjo-daro carried out by the Government of India between the years 1922 and 1927, Arthur Probst, London, 1931)。

發掘された文化層は、衰頽期の三層と中間期の三層と古代期の一層のみでその下部に未だ幾層か存在するが地下水のため調査が不可能である。マ氏は、モヘンジヨ・ダロの永續年代を概算五百年とし、エラム、メソポタミアでインダス式印章五個が発見された所から、ほゞその年代を紀元前二千七百五十年から同三千二百五十年までの間と見てゐる。最近層から廿四體の人體が発見せられてゐるがその人種は、Proto-Australoid, Mediterranean, Mongolian branch of the Alpine stock, Alpine の四系に分れ、既に甚だ混合せることを示し、その中の何れが本來の住民なるや不明である。此都市の特色は、スメルヤその他の地方と比してその住民の生活が著しく富裕なりしことで、煉瓦で作られた宏壯な私住宅、公共浴場等が残つてゐる。一般的文明は極めて高度の發達を遂げ、同一文化系統に屬するハラッパより出土した二體の首と手なき石像の優秀な出來榮えは後世ギリシアに至つて始めて到達し得た水準を示してゐる。工藝品に金、銀、銅、錫、その他種々な石材、鑛物類があらゆる地方より蒐集、利用されてゐる。紡織には、木綿が使用され、土器は陶車を使用し、彩色土器の模様には、スーザ第一期土器の影響も見えてゐる。宗教には、西亞と相通する原始母神像あり、後世のシヅの神の先驅と認められる男神像、樹木、殊に菩提樹、種々の半人半獸神、動物等が崇拜せられ、ナーガの崇拜、リンガ、ヨニの信仰も既に存在して居り、後世の印度教は既にこのアーリア以前の社會にその基礎を築けることが示されてゐる。多數発見された繪文字の印象が讀破せられた將來に於て吾人の古代史の概念が著しく變改せしめられる時代が來るであらう。東洋史學界にとつても西洋史學界にとつても驚くべき啓示を與へ、無限の謎を提供する近來の大著作物として本書を江湖に推薦する(松本信廣)